

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

DPに基づく3つの到達目標

(高度な専門的知識・技能)

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

(高い問題解決能力と表現力)

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

(高い倫理観に基づいた自律的行動力)

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環 (1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環 (2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環 (3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル (1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル (2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル (3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル (4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論 (1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論 (2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 11回 流動性選好理論 (3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論 (4) 【信用創造】【貨幣乗数】
- 13回 IS-LMモデル (1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル (2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

マクロ経済分析基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (30%) と期末試験 (70%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は積み重ねの学問なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 消費者行動理論(1)：【選好】【効用】【無差別曲線】
- 3回 消費者行動理論(2)：【予算制約】最適消費量の決定
- 4回 消費者行動理論(3)：【スルーツキー方程式】
- 5回 消費者行動理論(4)：【補償需要】
- 6回 生産者行動理論(1)：【生産物市場】【生産要素市場】
- 7回 生産者行動理論(2)：【生産理論】
- 8回 生産者行動理論(3)：【費用理論】
- 9回 生産者行動理論(4)：最適供給量の決定
- 10回 厚生経済学(1)：【エッジワースのボックス・ダイアグラム】
- 11回 厚生経済学(2)：【パレート最適】
- 12回 厚生経済学(3)：【厚生経済学の定理】
- 13回 市場と市場調整
- 14回 経済とミクロ経済分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

ミクロ経済分析基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門レベルのミクロ経済学について事前に復習をしておくこと、授業内容の理解がより深まる。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

計量経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計処理ソフトウェアに習熟し、これを利用して経済の実証分析ができるようになることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：経済問題について何が問題かを捉え、解決のための分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：経世済民を心に秘め、経済問題を考える。

教科書 /Textbooks

星野匡郎、田中久稔(2016)『Rによる実証分析』Ohmsha

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論
- 2 回帰分析の目的
- 3 統計の基礎知識
- 4 確率論の基礎
- 5 回帰分析の基礎
- 6 推測統計の基礎
- 7 相関関係と因果関係
- 8 外生変数と内生変数
- 9 ランダム化実験
- 10 マッチング法
- 11 不連続回帰デザイン
- 12 操作変数法
- 13 実証分析の手順
- 14 Rの基礎
- 15 Pythonの基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

計量経済分析基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単回帰、重回帰、パネル分析、VAR、R、python

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学 I

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

間接税および所得税の最適課税の在り方について大学院レベルのスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。

DPに基づく3つの到達目標

①《高度な専門知識・技能》

経済理論モデルを用いて最適課税を導出することができる。

②《高い問題解決能力と表現力》

数式・理論モデルを活用し、最適課税の先行研究の帰結を整理できる。

③《高い倫理観に基づいた自律的行動》

先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Lectures on Public Economics (Authors: Anthony B. Atkinson & Joseph E. Stiglitz)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Microeconomic Analysis (Author: Hal R. Varian)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.The structure of Indirect Taxation - Partial Equilibrium Analysis-
- 2.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(1)-
- 3.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(2) with two goods and labour-
- 4.The structure of Indirect Taxation - Application of the Ramsey Results-
- 5.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(1)-
- 6.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(2) under identical utility functions-
- 7.The structure of Income Taxation - A simple model-
- 8.The structure of Income Taxation - Choice Open to Government-
- 9.The structure of Income Taxation - Social Welfare Maximization-
- 10.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (1) The Government's Problem-
- 11.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (2) The Optimum Linear Income Tax-
- 12.The structure of Income Taxation - Optimum Linear Income Tax under the Cobb-Douglas utility function-
- 13.The structure of Income Taxation - General Income Tax (1) The basic model-
- 14.The structure of Income Taxation - General Income Tax (2) The Optimum optimum Income Tax conditions-
- 15.A Summary of Income and Indirect Taxation

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 配布資料の指示した箇所をあらかじめ読んでおくこと (目安時間 40分~60分)

事後学習) ①練習問題や②講義で説明した数式の導出過程の復習をしておくこと

財政学I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

公共経済学のテキストを用いて最適課税理論を議論しますので以下の最低限の数学的知識を要する。
ベクトル、行列式、最適化問題の解、分布（密度）関数、 Σ や J の演算等。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の分野で蓄積されてきた最適課税の理論研究をがんばって学びたい方は歓迎します。

キーワード /Keywords

財政/最適課税論

地域経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

地域経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、問題を適切に分析して解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

地域経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

地域経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を予め予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード /Keywords

経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代のイギリスを発端とし世界に波及していった「産業革命」を事例とします。そして「産業革命」とはいかなる「革命」で、なぜ「革命」は起きたのか分析することを通じて、経済史を学ぶ意義について皆さんと考えていきたいと思ひます。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

経済史に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

経済史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 戦と掠奪の経済史
- 第5回 前近代社会における人口抑制策 - ヨーロッパを事例として -
- 第6回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第7回 「勤勉革命」
- 第8回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第9回 なぜ「産業革命」はイギリスで起こったのか - 「革命」のインセンティブ -
- 第10回 エネルギーと「産業革命」 - イギリスのアドバンテージ -
- 第11回 「産業革命」の精神的要因 - 資本主義とキリスト教 -
- 第12回 「豊かな国」と「貧しい国」の構造化
- 第13回 日本はなぜ植民地化されなかったのか - 「勤勉革命」と工業化の基礎条件 -
- 第14回 「革命」の輸入 - 政府および民間による技術移転 -
- 第15回 「産業革命」はアジアで起こり得たか

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の授業内容を復習して講義に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命

会計学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅰでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）、

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

会計学I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、使用テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分予習をしておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に着ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

財務会計I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(=損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネット等で学習しておくこと。

事後学習：財務会計論の基礎的な思考並びにキータームを整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅰ【昼】

担当者名 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
企業経営の理解に必要な専門知識を修得している。
- 【高い問題解決能力と表現力】
企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の要望も取り入れて、1回目に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

- 第1部：企業経営と人事労務管理
第2部：採用から定年までの仕事
第3部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
第4部：日本の人事労務管理、20世紀と21世紀

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

経営学I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

マーケティングに関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2~15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門的知識・技能》 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済現象を解明できるようになる。
- 《高い問題解決能力と表現力》 経営組織の諸問題・課題について、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 高度な専門知識を活かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)
- 三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)
- 三戸公『家の論理I・II』文真堂、1992年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、さまざまな組織を経営する上での根本的な原理の理解を目指します。講義では、学生による報告および、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 テキストの各章の輪読
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、発表・報告内容(40%)、レポート提出(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された教科書について、報告者は講義前に該当箇所をよく読み込んでレジユメを作成し、報告者以外の人にも読み込んで講義に臨んでください。また、講義後にもう一度該当箇所を読み復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

経営組織論 【昼】

キーワード /Keywords

情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを整理、分析をする手法について、テキスト輪読（受講者へ割当て報告してもらおう）をする。具体的には、Pythonというプログラミング言語によるデータ分析手法と実施方法について学ぶ。テキスト輪読と演習によって理解度を深める、定期的に宿題（レポート課題）の提出をしてもらう。（具体的には、毎回テキストの一定範囲を全員予習し、講義中は代表者が解説し、全員で理解度確認のための演習を行う。）

DPに基づく3つの到達目標

（高度な専門知識点・技能）

機械学習や複雑系分野の論文を読むことができる。

（高い問題解決能力と表現）

自分の研究テーマについてシミュレーションなどを用いて実験ができる。

（高い倫理観に基づいた自律的行動力）

研究テーマ関連する先行研究を自ら学び、自らのテーマに応用できる。

教科書 /Textbooks

「Pythonで理解する統計解析の基礎」、谷合 廣紀（著）、辻 真吾（監修）、技術評論社、2018、本体2,980円＋税、ISBN978-4-297-10049-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：必要ファイルのコピー、操作演習。
- 第3回：テキスト輪読、演習1【データの大きさ、変数の種類】
- 第4回：テキスト輪読、演習2【データの指標】
- 第5回：テキスト輪読、演習3【2次元データ】
- 第6回：テキスト輪読、演習4【母集団と標本】
- 第7回：テキスト輪読、演習5【推測統計】
- 第8回：テキスト輪読、演習6【離散型確率変数】
- 第9回：テキスト輪読、演習7【離散型確率分布】
- 第10回：テキスト輪読、演習8【連続型確率変数】
- 第11回：テキスト輪読、演習9【連続型確率分布】
- 第12回：テキスト輪読、演習10【独立同一分布】
- 第13回：テキスト輪読、演習11【統計的推定】
- 第14回：テキスト輪読、演習12【統計的仮説検定】
- 第15回：テキスト輪読、演習13【回帰分析】

※履修者の希望、理解度に応じて内容を変更する場合があります。

情報管理基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み（報告内容など）70%、宿題（レポート）30%により、シラバスの到達目標をどの程度満たしているかを判断して評価する。

詳細は第1回目に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本的なWindows操作の知識は前提とします。

講義前にはテキストやその他資料により予習、報告準備をし、講義後には復習と課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数が少ないことが予想されるので、報告してもら回数は多くなると思います。

USBフラッシュメモリ（2Gb程度の空き容量が必要）をしますので持っていない人は準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「マクロ経済分析基礎」（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、開放経済下のマクロ経済（マンデル＝フレミング・モデル）、経済成長理論、消費・貯蓄の決定理論、世代重複モデルなどである。

DPに基づく3つの到達目標

（高度な専門的知識・技能）

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

（高い問題解決能力と表現力）

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

（高い倫理観に基づいた自律的行動力）

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】 【LM曲線】 【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】 【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【ダイヤモンド・インフレ】 【コストプッシュ・インフレ】 【スタグフレーション】
- 5回 マンデル＝フレミング・モデル（1） 【為替レート】 【変動相場制度】 【固定相場制度】
- 6回 マンデル＝フレミング・モデル（2） 【開放経済下の財政・金融政策】
- 7回 新古典派成長理論（1） 【マクロ生産関数】 【一人あたりGDPの決定要因】 【全要素生産性】 【資本労働比率】
- 8回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長モデル】
- 9回 新古典派成長理論（3） 【貯蓄率】 【収束】 【黄金律】
- 10回 新古典派成長理論（4） 【人的資本】
- 11回 消費・貯蓄の決定理論（1） 【消費平準化】 【異時点間の予算制約】 【効用最大化】
- 12回 消費・貯蓄の決定理論（2） 【リカードの中立命題】
- 13回 世代重複モデル（1） 【資本の過剰蓄積】
- 14回 世代重複モデル（2） 【世代間所得分配】
- 15回 まとめ

マクロ経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (30%) と期末試験 (70%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】 【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】 【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

ミクロ経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学II

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字の問題などの財政問題についてグローバルスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。

DPに基づく3つの到達目標

①《高度な専門知識・技能》

経済理論モデルを用いて公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字などの財政問題を分析することができる。

②《高い問題解決能力と表現力》

数式・理論モデルを活用し、様々な財政問題の先行研究の帰結を整理できる。

③《高い倫理観に基づいた自律的行動》

先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし (参考文献は講義内に指示する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Economic growth (by Robert J. Barro and Xavier Sala-i-Martin). The MIT press

A theory of Economic growth (by David de la Croix and Philippe Michel). Cambridge University Press

Handbook of Public Economics (by Alan J. Auerbach, Raj Chetty, Martin Feldstein and Emmanuel Saez). North-Holland

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Provision of public goods in a simple static game structure.
- 2 Provision of public goods in Nash Equilibria
- 3 Optimal provision of public goods
- 4 Provision of local public goods in a simple static model
- 5 Provision of local public goods with tax competition and tax coordination
- 6 Productive public goods (1) in an endogenous growth model
- 7 Productive public goods (2) under growth and welfare maximizing policies
- 8 Intergenerational redistributive policies-introduction to an overlapping-generations model-
- 9 Public pension policies in a life cycle model
- 10 Public pension policies in a model with intergenerational altruism
- 11 Effects of public pensions on growth (or capital accumulation)
- 12 Public deficits and debts (1) -the government's budget constraint-
- 13 Public deficits and debts (2) in a model with intergenerational altruism
- 14 Public deficits and debts (3) in a life cycle model
- 15 A summary

財政学II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 指示された参考文献および論文を事前に予習しておくこと。

事後学習) 式の導出を完全に理解できるまで復習し、練習問題等を解いておくこと。

履修上の注意 /Remarks

数式展開をしていく中で、指数・対数、微分・積分、 Σ や \int などの演算が自然とできること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政

金融論【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

金融の理解に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

金融に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

金融論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・30%、ディスカッションへの貢献・・・20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。
毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

国際金融に関する研究書・資料を正しく読解したうえで、関連する資料を自ら見つけることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究書・資料の内容を人に説明できるとともに、それについての自分の意見を展開できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

適切な引用の仕方、参考文献一覧の作成法を身につけるとともに、先行研究の諸説を自説と対比して整理できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【IS/バランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する(100%)。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

国際金融論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の初回に指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

産業組織論・Yield Managementの基礎を学ぶ。高度な専門知識、統計解析等の技能、そして学問に向かう態度を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法に必要な専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

産業組織に関する改善案を主体的に提案できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Oz Shy. 2008. How to Price: A Guide to Pricing Techniques and Yield Management. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Yield Management について
2. 価格付けの導入
3. 需要と費用1
4. 需要と費用2
5. 価格付け_1
6. 価格付け_2
7. Bundling and Tying_1
8. Bundling and Tying_2
9. Multipart tariff_1
10. Multipart tariff_2
11. Vertical Product Differentiation_1
12. Vertical Product Differentiation_2
13. Auction_1
14. Auction_2
15. まとめ

産業組織論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微積分学の知識が必要。
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

統計学

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Excel、Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：社会・経済問題について何が問題かを捉え、数量的な分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：社会・経済問題をデータに基づく分析と解決のための提案ができる。

教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

統計学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

計量経済学的分析結果を読み取ることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

状況に応じた適切な計量経済学的分析手法を選択することができる。

《高い倫理観に基づいた自立的行動力》

計量経済学的分析の具体例について計算または図解できる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回 講義概要と表計算ソフトの操作
- 2回 因果関係
- 3回 回帰分析の結果を読む
- 4回 回帰分析の理論的基礎
- 5回 内生性
- 6回 操作変数
- 7回 パネルデータ
- 8回 実験
- 9回 最尤原理
- 10回 プロビット
- 11回 多肢選択
- 12回 標本選別
- 13回 時系列分析
- 14回 データの縮約
- 15回 まとめ

計量経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%、によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：クラスで指定する文献・資料を事前に読んでください。

復習：授業のメモを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 労働経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。この人事の経済学における主な理論的基礎はミクロ経済学である。本講義では、企業における人的資源管理について、どのようにミクロ経済学を応用して検討するかを学ぶ。扱うトピックは、採用・解雇基準の設定、賃金形態の設定、職業訓練の実施といった人事制度に関してである。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための基礎を身につけることを目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

労働経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』，エドワード P. ラジアア著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

労働経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人事の経済学とは【人事制度】
- 第2回 採用基準の設定（1）【限界分析】
- 第3回 採用基準の設定（2）【対費用効果】
- 第4回 適任者の採用【自己選択】【モニタリング】
- 第5回 労働者の生産性を知る【非対称情報】【職務配置】
- 第6回 変動給与と固定給与（1）【投入ベース】【産出ベース】
- 第7回 変動給与と固定給与（2）【リスク回避】【就労インセンティブ】
- 第8回 人的資本理論（1）【人的資本理論】【学校教育】
- 第9回 人的資本理論（2）【職場訓練】
- 第10回 離職・解雇・希望退職（1）【年齢構成】
- 第11回 離職・解雇・希望退職（2）【希望退職】【選別的解雇】
- 第12回 情報、シグナル及び引き抜き（1）【シグナリング】
- 第13回 情報、シグナル及び引き抜き（2）【引き抜き】
- 第14回 動機づけとしての昇進（1）【トーナメント】
- 第15回 動機づけとしての昇進（2）【絶対成果】【相対成果】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%、レポート 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおくこと。講義中の課題を出すので解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

【高度な専門的知識・技能】

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

【高い問題解決能力と表現力】

環境経済学における経済理論モデルの理解、実証を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現在直面する環境問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学-理論と実践』 勁草書房 2005年○

岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○

環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言（25%）、発表（25%）、期末試験（50%）
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、問題解決志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的でしかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深くしかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

DPに基づく3つの到達目標

<<高度な専門知識・技能>>

地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニク
- 15回 期末レポート発表および討論

応用地域科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20%：レポート発表、30%：レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に係わる論文・書籍の内容の理解はもとより、院生が不明と思う点に関して自ら調べ授業の備える。授業後は当該授業の内容の深い理解に努めるとともに、さらなる不明点がある場合はそれについて調べる。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学は必須、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。
各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

キーワード /Keywords

地域科学、計量分析、都市経済学、地域経済学

会計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学II

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学IIではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

会計学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ティスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に着ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式、貸借対照表等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

財務会計II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(=損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書、参考書、インターネット等の文献を用いて学習しておくこと。

事後学習：財務会計論のキータームを中心に、基礎的な思考を整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、院生との相談の上、進める予定である。

キーワード /Keywords

管理会計【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
企業経営に関するより高度な専門知識を修得している。
- 【高い問題解決能力と表現力】
企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
企業経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション
第2～15回：日本企業のうち、過去20年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探究していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%。
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。
また、授業で習った内容や指示された事例について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
DPに基づく到達目標は以下のとおりです。
《高度な専門知識・技能》
経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
《高い問題解決能力と表現力》
その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。さらに、経営問題の解決に応用できる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
客観的な視点で考え、現実の経営問題に対処することができる。

教科書 /Textbooks

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年を使用。
その他、随時、参考資料を提供する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに沿って随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。

第1回 ガイダンス
第2回 イントロダクション 【定義】【経営戦略論史】
第3回 事業戦略①フレームワーク 【SWOT】【Five Forces】【VC】【RBV】
第4回 事業戦略②基本戦略 【差別優位】【コスト優位】
第5回 競争のダイナミズム①競争優位の持続可能性 【システム】【経営資源】【組織能力】
第6回 競争のダイナミズム②業界標準と競争 【ネットワーク外部性】【業界標準】【競争と協調】
第7回 競争のダイナミズム③イノベーションと産業進化 【技術】【市場】【収益化】
第8回 企業戦略①フレームワーク 【事業の定義】【取引費用】【事業範囲】
第9回 企業戦略②垂直統合 【生産費用】【取引費用】【中間組織】
第10回 企業戦略③多角化 【多角化の要因】【多角化のタイプ】【学習】
第11回 企業戦略④多角化のマネジメント 【組織形態】【PPM】【凝集性】
第12回 国際化の戦略 【国際化の形態】【OLI】【トランスナショナル】
第13回 参入と撤退 【内部成長】【M&A】【アライアンス】
第14回 撤退とリストラクチャリング【清算】【売却】【事業統合】【リストラクチャリング】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%、発表・報告内容80%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断し、評価する。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

前半（第10回まで）は、コーポレート・ファイナンスのもっとも基礎的な理論であるMM理論を復習した後、実証研究で用いられることの多いエージェンシー理論およびシグナリング理論について、講義形式で解説するとともに、有名な実証論文をレビューする。後半（第11～15回）は、合併・買収（M&A）、リストラクチャリング、新株発行、新規株式公開（IPO）、ペイアウト政策、コーポレートガバナンスなどのトピックのうち、参加者の関心のあるテーマについて、書籍あるいは論文を読む。前半は適宜小テストを実施する。後半については、参加者による報告を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

企業のファイナンスに関して生起する諸問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

前半については、Power Point 形式の講義資料を配布する。後半については、参加者と相談のうえ指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社。

コーポレート・ファイナンス【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 資本構成の基礎理論【MM理論、節税、倒産、トレードオフ】
3. 配当政策の基礎理論【MM理論、配当課税、キャピタルゲイン課税】
4. 資本構成のエージェンシー理論：概説【エージェンシーコスト、所有と経営の分離、株式のエージェンシー・コスト】
5. 負債のエージェンシー・コスト①【資産代替、過小投資】
6. 負債のエージェンシー・コスト②【財務上の特約、企業・銀行間関係】
7. 資本構成の決定要因【成長機会、規模、有形固定資産、収益性】
8. 配当のエージェンシー理論【配当、成長機会、過大投資】
9. 配当のシグナリング理論【シグナリング】
10. 前半まとめ
11. コーポレート・ファイナンスのトピックス①【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
12. コーポレート・ファイナンスのトピックス②【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
13. コーポレート・ファイナンスのトピックス③【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
14. コーポレート・ファイナンスのトピックス④【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
15. コーポレート・ファイナンスのトピックス⑤【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(5回)60%、レポート20%、報告10%、質疑10%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料(Power Point ファイル)を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのファイナンスの知識を有していることを前提に授業を進めます。エージェンシー理論、シグナリング理論はミクロ経済学、論文の理解には計量経済学の知識がそれぞれ必要になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下記参考書に挙げている原田・平野(2018)の使用を検討している。この教科書は数少ない大学院生向けの人的資源管理テキストであり、読み応え十分である。ただし、これを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田順子・平野光俊(2018)『人的資源管理(新訂)』放送大学教育振興会。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(i昨年度の学部講義科目教科書)

上林憲雄編(2016)『ベーシック+人的資源管理』中央経済社。(一昨年度の学部講義科目教科書)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

その他、専門的な学術論文を適宜配布するので、これについても予習が必要。

※別途、各回において論文を配布する。

人的資源管理 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 日本の人事制度の研究【双対原理】【組織モード】【インセンティブ】
- 4回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 7回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 8回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 9回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 10回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 知識労働者の人的資源管理に関する研究【ナレッジ・ワーカー】【R&D技術者】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、いずれの教科書を用いるかによって若干内容は変化することに留意されたい。また、人的資源管理に関する基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いほどよいことはあらかじめ承されたい。）

中間レポート・・・50%（2,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）

最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）

によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：事前に教科書の該当箇所、および配布された論文は必ず読んでくること。自分の報告のときだけ予習し、他人の報告のときは学習しないなどは言語道断。

事後学習：教科書を再度読み、報告レジュメを読みなおすことで、各回の復習を必ず行うこと。報告のやりっ放しにならないように。

履修上の注意 /Remarks

(1) このシラバスを読んだうえで履修登録すること。時間帯の都合だけで科目選択してはならない（本科目に限らない）。

(2) 講義は日本語で行なう。

(3) 大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。とくに、学部で人的資源管理（あるいはそれに類する科目）を受講した学生を主対象としたい。ただ、学部のときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。

人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。経営組織論や経営戦略論と併せて受講することを推奨する。

時間割で選択する科目は、自身のプラスになるように考えようで選択すること。繰り返すが、単位の取りやすさ、曜日や時限だけで判断しないこと。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN511S	◎	○	○
科目名	マクロ経済分析基礎		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

DPに基づく3つの到達目標

(高度な専門的知識・技能)

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

(高い問題解決能力と表現力)

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

(高い倫理観に基づいた自律的行動力)

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル(2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル(4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利率】
- 11回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論(4) 【信用創造】【貨幣乗数】
- 13回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(30%)と期末試験(70%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済分析基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済学は積み重ねの学問なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN512S	◎	○	○
科目名	ミクロ経済分析基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

< 高度な専門的知識・技能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 消費者行動理論(1)：【選好】【効用】【無差別曲線】
- 3回 消費者行動理論(2)：【予算制約】最適消費量の決定
- 4回 消費者行動理論(3)：【スルーツキー方程式】
- 5回 消費者行動理論(4)：【補償需要】
- 6回 生産者行動理論(1)：【生産物市場】【生産要素市場】
- 7回 生産者行動理論(2)：【生産理論】
- 8回 生産者行動理論(3)：【費用理論】
- 9回 生産者行動理論(4)：最適供給量の決定
- 10回 厚生経済学(1)：【エッジワースのボックス・ダイアグラム】
- 11回 厚生経済学(2)：【パレート最適】
- 12回 厚生経済学(3)：【厚生経済学の定理】
- 13回 市場と市場調整
- 14回 経済とミクロ経済分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

ミクロ経済分析基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門レベルのミクロ経済学について事前に復習をしておく、授業内容の理解がより深まる。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

計量経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN530S	◎	○	○
科目名	計量経済分析基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計処理ソフトウェアに習熟し、これを利用して経済の実証分析ができるようになることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：経済問題について何が問題かを捉え、解決のための分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：経世済民を心に秘め、経済問題を考える。

教科書 /Textbooks

星野匡郎、田中久稔(2016)『Rによる実証分析』Ohmsha

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論
- 2 回帰分析の目的
- 3 統計の基礎知識
- 4 確率論の基礎
- 5 回帰分析の基礎
- 6 推測統計の基礎
- 7 相関関係と因果関係
- 8 外生変数と内生変数
- 9 ランダム化実験
- 10 マッチング法
- 11 不連続回帰デザイン
- 12 操作変数法
- 13 実証分析の手順
- 14 Rの基礎
- 15 Pythonの基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

計量経済分析基礎 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単回帰、重回帰、パネル分析、VAR、R、python

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN560S		◎	○	○
科目名		財政学 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

間接税および所得税の最適課税の在り方について大学院レベルのスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。
DPに基づく3つの到達目標
①《高度な専門知識・技能》
経済理論モデルを用いて最適課税を導出することができる。
②《高い問題解決能力と表現力》
数式・理論モデルを活用し、最適課税の先行研究の帰結を整理できる。
③《高い倫理観に基づいた自律的行動》
先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Lectures on Public Economics (Authors: Anthony B. Atkinson & Joseph E. Stiglitz)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Microeconomic Analysis (Author: Hal R. Varian)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.The structure of Indirect Taxation - Partial Equilibrium Analysis-
- 2.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(1)-
- 3.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(2) with two goods and labour-
- 4.The structure of Indirect Taxation - Application of the Ramsey Results-
- 5.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(1)-
- 6.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(2) under identical utility functions-
- 7.The structure of Income Taxation - A simple model-
- 8.The structure of Income Taxation - Choice Open to Government-
- 9.The structure of Income Taxation - Social Welfare Maximization-
- 10.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (1) The Government's Problem-
- 11.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (2) The Optimum Linear Income Tax-
- 12.The structure of Income Taxation - Optimum Linear Income Tax under the Cobb-Douglas utility function-
- 13.The structure of Income Taxation - General Income Tax (1) The basic model-
- 14.The structure of Income Taxation - General Income Tax (2) The Optimum optimum Income Tax conditions-
- 15.A Summary of Income and Indirect Taxation

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 配布資料の指示した箇所をあらかじめ読んでおくこと (目安時間 40分~60分)
事後学習) ①練習問題や②講義で説明した数式の導出過程の復習をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

公共経済学のテキストを用いて最適課税理論を議論しますので以下の最低限の数学的知識を要する。
ベクトル、行列式、最適化問題の解、分布 (密度) 関数、 Σ や J の演算等。

財政学I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の分野で蓄積されてきた最適課税の理論研究をがんばって学びたい方は歓迎します。

キーワード /Keywords

財政/最適課税論

地域経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN540S	◎	○	○
科目名	地域経済論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

地域経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、問題を適切に分析して解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

地域経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

地域経済論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を予め予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード /Keywords

経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN520S	◎	○	○
科目名	経済史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何がみえてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代のイギリスを発端とし世界に波及していった「産業革命」を事例とします。そして「産業革命」とはいかなる「革命」で、なぜ「革命」は起きたのか分析することを通じて、経済史を学ぶ意義について皆さんと考えていきたいと思っております。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

経済史に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 戦と掠奪の経済史
- 第5回 前近代社会における人口抑制策 - ヨーロッパを事例として -
- 第6回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第7回 「勤勉革命」
- 第8回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第9回 なぜ「産業革命」はイギリスで起こったのか - 「革命」のインセンティブ -
- 第10回 エネルギーと「産業革命」 - イギリスのアドバンテージ -
- 第11回 「産業革命」の精神的要因 - 資本主義とキリスト教 -
- 第12回 「豊かな国」と「貧しい国」の構造化
- 第13回 日本はなぜ植民地化されなかったのか - 「勤勉革命」と工業化の基礎条件 -
- 第14回 「革命」の輸入 - 政府および民間による技術移転 -
- 第15回 「産業革命」はアジアで起こり得たか

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

経済史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の授業内容を復習して講義に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命

会計学I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC510S	◎	○	○
科目名	会計学 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Iでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）、

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

会計学I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、使用テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分予習をしておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC511S		◎	○	○
科目名		財務会計Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に付ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

財務会計I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(=損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネット等で学習しておくこと。

事後学習：財務会計論の基礎的な思考並びにキータームを整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS510S	◎	○	○
科目名	経営学Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
企業経営の理解に必要な専門知識を修得している。
- 【高い問題解決能力と表現力】
企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の要望も取り入れて、1回目に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

- 第1部：企業経営と人事労務管理
第2部：採用から定年までの仕事
第3部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
第4部：日本の人事労務管理、20世紀と21世紀

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。
また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営学I 【昼】

キーワード /Keywords

マーケティング【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS530S	◎	○	○
科目名	マーケティング		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

マーケティングに関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2~15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS511S	◎	○	○
科目名	経営組織論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門的知識・技能》 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済現象を解明できるようになる。
- 《高い問題解決能力と表現力》 経営組織の諸問題・課題について、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 高度な専門知識を活かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)
- 三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)
- 三戸公『家の論理I・II』文真堂、1992年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、さまざまな組織を経営する上での根本的な原理の理解を目指します。講義では、学生による報告および、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 テキストの各章の輪読
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、発表・報告内容(40%)、レポート提出(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された教科書について、報告者は講義前に該当箇所をよく読み込んでレジュメを作成し、報告者以外の人にも読み込んで講義に臨んでください。また、講義後にもう一度該当箇所を読み復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

キーワード /Keywords

情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS512S	◎	○	○
科目名	情報管理基礎		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを整理、分析をする手法について、テキスト輪読（受講者へ割当し報告してもらう）をする。具体的には、Pythonというプログラミング言語によるデータ分析手法と実施方法について学ぶ。テキスト輪読と演習によって理解度を深める、定期的に宿題（レポート課題）の提出をしてもらう。（具体的には、毎回テキストの一定範囲を全員予習し、講義中は代表者が解説し、全員で理解度確認のための演習を行う。）

DPに基づく3つの到達目標
（高度な専門知識・技能）
機械学習や複雑系分野の論文を読むことができる。
（高い問題解決能力と表現）
自分の研究テーマについてシミュレーションなどを用いて実験ができる。
（高い倫理観に基づいた自律的行動力）
研究テーマ関連する先行研究を自ら学び、自らのテーマに応用できる。

教科書 /Textbooks

「Pythonで理解する統計解析の基礎」、谷合 廣紀（著）、辻 真吾（監修）、技術評論社、2018、本体2,980円＋税、ISBN978-4-297-10049-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：必要ファイルのコピー、操作演習。
- 第3回：テキスト輪読、演習1【データの大きさ、変数の種類】
- 第4回：テキスト輪読、演習2【データの指標】
- 第5回：テキスト輪読、演習3【2次元データ】
- 第6回：テキスト輪読、演習4【母集団と標本】
- 第7回：テキスト輪読、演習5【推測統計】
- 第8回：テキスト輪読、演習6【離散型確率変数】
- 第9回：テキスト輪読、演習7【離散型確率分布】
- 第10回：テキスト輪読、演習8【連続型確率変数】
- 第11回：テキスト輪読、演習9【連続型確率分布】
- 第12回：テキスト輪読、演習10【独立同一分布】
- 第13回：テキスト輪読、演習11【統計的推定】
- 第14回：テキスト輪読、演習12【統計的仮説検定】
- 第15回：テキスト輪読、演習13【回帰分析】

※履修者の希望、理解度に応じて内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み（報告内容など）70%、宿題（レポート）30%により、シラバスの到達目標をどの程度満たしているかを判断して評価する。

詳細は第1回目に説明します。

情報管理基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本的なWindows操作の知識は前提とします。

講義前にはテキストやその他資料により予習、報告準備をし、講義後には復習と課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数が少ないことが予想されるので、報告してもらう回数は多くなると思います。

USBフラッシュメモリ (2Gb程度の空き容量が必要) を使いますので持っていない人は準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN513S	○	◎	○
科目名	マクロ経済学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

「マクロ経済分析基礎」（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、開放経済下のマクロ経済（マンデル＝フレミング・モデル）、経済成長理論、消費・貯蓄の決定理論、世代重複モデルなどである。

DPに基づく3つの到達目標

（高度な専門的知識・技能）

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

（高い問題解決能力と表現力）

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

（高い倫理観に基づいた自律的行動力）

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【ディマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
- 5回 マンデル＝フレミング・モデル（1）【為替レート】【変動相場制度】【固定相場制度】
- 6回 マンデル＝フレミング・モデル（2）【開放経済下の財政・金融政策】
- 7回 新古典派成長理論（1）【マクロ生産関数】【一人あたりGDPの決定要因】【全要素生産性】【資本労働比率】
- 8回 新古典派成長理論（2）【新古典派成長モデル】
- 9回 新古典派成長理論（3）【貯蓄率】【収束】【黄金律】
- 10回 新古典派成長理論（4）【人的資本】
- 11回 消費・貯蓄の決定理論（1）【消費平準化】【異時点間の予算制約】【効用最大化】
- 12回 消費・貯蓄の決定理論（2）【リカードの中立命題】
- 13回 世代重複モデル（1）【資本の過剰蓄積】
- 14回 世代重複モデル（2）【世代間所得分配】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（30％）と期末試験（70％）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な文献を読むこと。

マクロ経済学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN514S	○	◎	○
科目名	ミクロ経済学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

< 高度な専門的知識・技能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】、【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】、【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

ミクロ経済学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN561S	○	◎	○
科目名	財政学II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字の問題などの財政問題についてグローバルスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。

DPに基づく3つの到達目標

①《高度な専門知識・技能》

経済理論モデルを用いて公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字などの財政問題を分析することができる。

②《高い問題解決能力と表現力》

数式・理論モデルを活用し、様々な財政問題の先行研究の帰結を整理できる。

③《高い倫理観に基づいた自律的行動》

先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし（参考文献は講義内に指示する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Economic growth (by Robert J. Barro and Xavier Sala-i-Martin). The MIT press

A theory of Economic growth (by David de la Croix and Philippe Michel). Cambridge University Press

Handbook of Public Economics (by Alan J. Auerbach, Raj Chetty, Martin Feldstein and Emmanuel Saez). North-Holland

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Provision of public goods in a simple static game structure.
- 2 Provision of public goods in Nash Equilibria
- 3 Optimal provision of public goods
- 4 Provision of local public goods in a simple static model
- 5 Provision of local public goods with tax competition and tax coordination
- 6 Productive public goods (1) in an endogenous growth model
- 7 Productive public goods (2) under growth and welfare maximizing policies
- 8 Intergenerational redistributive policies-introduction to an overlapping-generations model-
- 9 Public pension policies in a life cycle model
- 10 Public pension policies in a model with intergenerational altruism
- 11 Effects of public pensions on growth (or capital accumulation)
- 12 Public deficits and debts (1) -the government's budget constraint-
- 13 Public deficits and debts (2) in a model with intergenerational altruism
- 14 Public deficits and debts (3) in a life cycle model
- 15 A summary

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 指示された参考文献および論文を事前に予習しておくこと。

事後学習) 式の導出を完全に理解できるまで復習し、練習問題等を解いておくこと。

財政学II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

数式展開をしていく中で、指数・対数、微分・積分、 Σ や \int などの演算が自然とできること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政

金融論【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN562S	○	◎	○
科目名	金融論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

金融の理解に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

金融に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・30%、ディスカッションへの貢献・・・20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

金融論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。
毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN563S	○	◎	○
科目名	国際金融論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

国際金融に関する研究書・資料を正しく読解したうえで、関連する資料を自ら見つけることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究書・資料の内容を人に説明できるとともに、それについての自分の意見を展開できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

適切な引用の仕方、参考文献一覧の作成法を身につけるとともに、先行研究の諸説を自説と対比して整理できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実質為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する（100％）。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の初回に指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと

国際金融論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP 高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN541S	○	◎	○
科目名	産業組織論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

産業組織論・Yield Managementの基礎を学ぶ。高度な専門知識、統計解析等の技能、そして学問に向かう態度を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法に必要な専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

産業組織に関する改善案を主体的に提案できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Oz Shy. 2008. How to Price: A Guide to Pricing Techniques and Yield Management. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Yield Management について
2. 価格付けの導入
3. 需要と費用1
4. 需要と費用2
5. 価格付け_1
6. 価格付け_2
7. Bundling and Tying_1
8. Bundling and Tying_2
9. Multipart tariff_1
10. Multipart tariff_2
11. Vertical Product Differentiation_1
12. Vertical Product Differentiation_2
13. Auction_1
14. Auction_2
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微積分学の知識が必要。

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

産業組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN531S	○	◎	○
科目名	統計学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Excel、Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：社会・経済問題について何が問題かを捉え、数量的な分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：社会・経済問題をデータに基づく分析と解決のための提案ができる。

教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

統計学 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学【昼】

担当者名
/Instructor

藤井 敦 / 経済学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自立的行動力
ECN532S	○	◎	○
科目名	計量経済学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろいろな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

計量経済学的分析結果を読み取ることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

状況に応じた適切な計量経済学的分析手法を選択することができる。

《高い倫理観に基づいた自立的行動力》

計量経済学的分析の具体例について計算または図解できる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回講義概要と表計算ソフトの操作
- 2回因果関係
- 3回回帰分析の結果を読む
- 4回回帰分析の理論的基礎
- 5回内生性
- 6回操作変数
- 7回パネルデータ
- 8回実験
- 9回最尤原理
- 10回 プロビット
- 11回多肢選択
- 12回 標本選別
- 13回 時系列分析
- 14回 データの縮約
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%、によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

計量経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：クラスで指定する文献・資料を事前に読んでください。

復習：授業のメモを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN542S	○	◎	○
科目名	労働経済学		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネージメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。この人事の経済学における主な理論的基礎はミクロ経済学である。本講義では、企業における人的資源管理について、どのようにミクロ経済学を応用して検討するかを学ぶ。扱うトピックは、採用・解雇基準の設定、賃金形態の設定、職業訓練の実施といった人事制度に関してである。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための基礎を身につけることを目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

労働経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』，エドワード P. ラジャー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODククション：人事の経済学とは【人事制度】
- 第2回 採用基準の設定（1）【限界分析】
- 第3回 採用基準の設定（2）【対費用効果】
- 第4回 適任者の採用【自己選択】【モニタリング】
- 第5回 労働者の生産性を知る【非対称情報】【職務配置】
- 第6回 変動給与と固定給与（1）【投入ベース】【産出ベース】
- 第7回 変動給与と固定給与（2）【リスク回避】【就労インセンティブ】
- 第8回 人的資本理論（1）【人的資本理論】【学校教育】
- 第9回 人的資本理論（2）【職場訓練】
- 第10回 離職・解雇・希望退職（1）【年齢構成】
- 第11回 離職・解雇・希望退職（2）【希望退職】【選別的解雇】
- 第12回 情報，シグナル及び引き抜き（1）【シグナリング】
- 第13回 情報，シグナル及び引き抜き（2）【引き抜き】
- 第14回 動機づけとしての昇進（1）【トーナメント】
- 第15回 動機づけとしての昇進（2）【絶対成果】【相対成果】

労働経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%, レポート 30%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおくこと。講義中の課題を出すので解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN543S	○	◎	○
科目名	環境経済学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

【高度な専門的知識・技能】

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

【高い問題解決能力と表現力】

環境経済学における経済理論モデルの理解、実証を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現在直面する環境問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学-理論と実践』 勁草書房 2005年○
岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○
環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

環境経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ECN544S		○	◎	○
科目名	応用地域科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、問題解決志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的でしかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深くしかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

DPに基づく3つの到達目標

<<高度な専門知識・技能>>

地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニク
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20% : レポート発表、30% : レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に係わる論文・書籍の内容の理解はもとより、院生が不明と思う点に関して自ら調べ授業の備える。授業後は当該授業の内容の深い理解に努めるとともに、さらなる不明点がある場合はそれについて調べる。

応用地域科学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学は必須、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。
各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

キーワード /Keywords

地域科学、計量分析、都市経済学、地域経済学

会計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC512S		○	◎	○
科目名		会計学II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的元価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学IIではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにしたい。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

会計学II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	DP	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC513S		○	◎	○
科目名	財務会計Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に着ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式、貸借対照表等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

財務会計II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ（＝損益法）と資産・負債アプローチの考え方について、教科書、参考書、インターネット等の文献を用いて学習しておくこと。

事後学習：財務会計論のキータームを中心に、基礎的な思考を整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、院生との相談の上、進める予定である。

キーワード /Keywords

管理会計【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
ACC514S	○	◎	○
科目名	管理会計		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS513S	○	◎	○
科目名	経営学Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

企業経営に関するより高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

企業経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション

第2～15回：日本企業のうち、過去20年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探求していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%。

によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論【昼】

担当者名 /Instructor 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS514S	○	◎	○
科目名	経営戦略論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
DPに基づく到達目標は以下のとおりです。
《高度な専門的知識・技能》
経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
《高い問題解決能力と表現力》
その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。さらに、経営問題の解決に応用できる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
客観的な視点で考え、現実の経営問題に対処することができる。

教科書 /Textbooks

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年を使用。
その他、随時、参考資料を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに沿って随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。

第1回 ガイダンス
第2回 イントロダクション 【定義】【経営戦略論史】
第3回 事業戦略①フレームワーク 【SWOT】【Five Forces】【VC】【RBV】
第4回 事業戦略②基本戦略 【差別優位】【コスト優位】
第5回 競争のダイナミズム①競争優位の持続可能性 【システム】【経営資源】【組織能力】
第6回 競争のダイナミズム②業界標準と競争 【ネットワーク外部性】【業界標準】【競争と協調】
第7回 競争のダイナミズム③イノベーションと産業進化 【技術】【市場】【収益化】
第8回 企業戦略①フレームワーク 【事業の定義】【取引費用】【事業範囲】
第9回 企業戦略②垂直統合 【生産費用】【取引費用】【中間組織】
第10回 企業戦略③多角化 【多角化の要因】【多角化のタイプ】【学習】
第11回 企業戦略④多角化のマネジメント 【組織形態】【PPM】【凝集性】
第12回 国際化の戦略 【国際化の形態】【OLI】【トランスナショナル】
第13回 参入と撤退 【内部成長】【M&A】【アライアンス】
第14回 撤退とリストラクチャリング 【清算】【売却】【事業統合】【リストラクチャリング】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%、発表・報告内容80%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断し、評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

経営戦略論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS515S	○	◎	○
科目名	コーポレート・ファイナンス		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

前半（第10回まで）は、コーポレート・ファイナンスのもっとも基礎的な理論であるMM理論を復習した後、実証研究で用いられることの多いエージェンシー理論およびシグナリング理論について、講義形式で解説するとともに、有名な実証論文をレビューする。後半（第11～15回）は、合併・買収（M&A）、リストラクチャリング、新株発行、新規株式公開（IPO）、ペイアウト政策、コーポレートガバナンスなどのトピックのうち、参加者の関心のあるテーマについて、書籍あるいは論文を読む。前半は適宜小テストを実施する。後半については、参加者による報告を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

企業のファイナンスに関して生起する諸問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

前半については、Power Point 形式の講義資料を配布する。後半については、参加者と相談のうえ指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交護『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 資本構成の基礎理論【MM理論、節税、倒産、トレードオフ】
3. 配当政策の基礎理論【MM理論、配当課税、キャピタルゲイン課税】
4. 資本構成のエージェンシー理論：概説【エージェンシーコスト、所有と経営の分離、株式のエージェンシー・コスト】
5. 負債のエージェンシー・コスト①【資産代替、過小投資】
6. 負債のエージェンシー・コスト②【財務上の特約、企業・銀行間関係】
7. 資本構成の決定要因【成長機会、規模、有形固定資産、収益性】
8. 配当のエージェンシー理論【配当、成長機会、過大投資】
9. 配当のシグナリング理論【シグナリング】
10. 前半まとめ
11. コーポレート・ファイナンスのトピックス①【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
12. コーポレート・ファイナンスのトピックス②【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
13. コーポレート・ファイナンスのトピックス③【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
14. コーポレート・ファイナンスのトピックス④【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
15. コーポレート・ファイナンスのトピックス⑤【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（5回）60%、レポート20%、報告10%、質疑10%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

コーポレート・ファイナンス【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料 (Power Point ファイル) を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのファイナンスの知識を有していることを前提に授業を進めます。エージェンシー理論、シグナリング理論はミクロ経済学、論文の理解には計量経済学の知識がそれぞれ必要になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	高度な専門的知識・技能	高い問題解決能力と表現力	高い倫理観に基づいた自律的行動力
BUS516S	○	◎	○
科目名	人的資源管理		

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※現代経済専攻以外の学生は、科目と学位授与方針における能力の関連性を自専攻のカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下記参考書に挙げている原田・平野(2018)の使用を検討している。この教科書は数少ない大学院生向けの人的資源管理テキストであり、読み応え十分である。ただし、これを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田順子・平野光俊(2018)『人的資源管理(新訂)』放送大学教育振興会。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(i昨年度の学部講義科目教科書)

上林憲雄編(2016)『ベーシック+人的資源管理』中央経済社。(一昨年度の学部講義科目教科書)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

その他、専門的な学術論文を適宜配布するので、これについても予習が必要。

※別途、各回において論文を配布する。

人的資源管理 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 日本の人事制度の研究【双対原理】【組織モード】【インセンティブ】
- 4回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 7回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 8回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 9回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 10回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 知識労働者の人的資源管理に関する研究【ナレッジ・ワーカー】【R&D技術者】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、いずれの教科書を用いるかによって若干内容は変化することに留意されたい。また、人的資源管理に関する基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジュメを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いほどよいことはあらかじめ承されたい。）
 中間レポート・・・50%（2,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）
 最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：事前に教科書の該当箇所、および配布された論文は必ず読んでくること。自分の報告のときだけ予習し、他人の報告のときは学習しないなどは言語道断。
 事後学習：教科書を再度読み、報告レジュメを読みなおすことで、各回の復習を必ず行うこと。報告のやりっ放しにならないように。

履修上の注意 /Remarks

- (1) このシラバスを読んだうえで履修登録すること。時間帯の都合だけで科目選択してはならない（本科目に限らない）。
- (2) 講義は日本語で行なう。
- (3) 大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。とくに、学部で人的資源管理（あるいはそれに類する科目）を受講した学生を主対象としたい。ただ、学部ときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。
 人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。経営組織論や経営戦略論と併せて受講することを推奨する。
 時間割で選択する科目は、自身のプラスになるように考えようで選択すること。繰り返すが、単位の取りやすさ、曜日や時限だけで判断しないこと。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係